

土壌汚染対策等の8割が カーボンオフセット付き

H・TEC
が実施結果

土壌汚染調査・対策受注件数の約8割がカーボンオフセット付きに……。昨年3月からカーボンオフセット付き土壌汚染調査・対策事業を国内で初めて開始したエイチテック（広島県福山市）は昨年12月までの実施結果をまとめ、土壌汚染調査・対策受注件数111件のうち78％に当たる87件がカーボンオフセット付きだったことを明らかにした。土壌汚染調査・対策事業においても地球温暖化防止に向けた付加サービスに対する関心の高さが表れる結果となった。

ブナの木6012本分に
相当するCO₂削減量

このサービスは、発注者から受注した土壌汚染調査・対策業務で使用する機材運搬時のトラックや現地での調査機材等の燃料消費に伴って発生するCO₂を対象にして、同社の負担で第三者から

調達する排出権等を使ってカーボンオフセットするもの。発注者には、カーボンオフセット実施証明書が発行される。

昨年3月から10カ月間で削減したCO₂は、延べ66トンCO₂に達した。これはブナの木が1年間に吸収する量（115グラム）から試算する

と、6012本分に相当する量になる。中間段階での実施状況だが、「年間では80トンCO₂近くになるのではないかと」同社の岡田宏社長は話し、当初目標のCO₂量80トンCO₂の達成に自信を見せる。

CO₂排出量は、調査・対策業務発注後、現

場への運搬距離と稼働日数から算定する。例えば、大阪府庁での土壌汚染調査に同社班が1台、パートナー企業（試算では山陽建設工業）班1台の合計2台が3日間稼働すると仮定した場合、機材・人員運搬に付帯するCO₂排出量は、同社と大阪府庁の距離（往復4

75・8キロメートル）、山陽建設工業と大阪府庁の距離（同411・0キロメートル）の合計距離が886・8キロメートル（有料道路使用）となり、機材・人員に付帯するCO₂排出量は557・62グラムCO₂となる。これに、ボーリングマシンなど現場での調査業務に付帯するCO₂排出量（稼働台数2台、日数3日）182・36グラムCO₂を加算すると、同調査業務のCO₂排出量は、合計740グラムCO₂と算定される。

自社負担も意に介さず

この排出量について第三者から排出権を調達して相殺し、発注者に対し

てカーボンオフセット実施証明書を発行する。排出量算定の原単位は、使用するボーリングマシンの変更などで変わることもあるが、移動距離の算定や機材使用による排出量の算定も社内でもマニュアル化している。

第三者から調達する排出権は、同社が自己負担で調達するが、「環境対策の意識を持つ発注者に受け入れてもらえるなら」と意に介さない。実際、受注件数に占める割合が8割近くにも達しており、この付加価値が発注者側に対するアピールになっていることは疑いがない。同社では、今後ますます認知度を上げていきたいとしている。